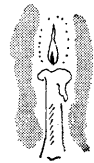


くりかえし



森 下 博 三

「くりかえし」「くりかえし」と、お題目をくりかえし口の中で唱えているうちに、「くりかえし」についての、いろいろな情景がいろいろみだれて、走馬燈のように駆けめぐり、目を重ねるうちに頭の中をお題目が占領し、子どもの頃のうれしいそして楽しいことを待つときのような、軽い興奮状態がねむりをうばってしまった。

「くりかえし」この言葉のもつ意味の大きさ、そして噛めば噛むほど味わいのあることに感心させられ、こうした題目を決められた方々に対して、敬意を表したく思った次第である。始めおさそいをうけたときに、私のような門外漢が、臆面もなく紙数を削ぐことはと、お断りすべきと思いつつ、つい言葉のもつ魔力に引きずり込まれてしまったようである。出題者の真意にもとる点については、悪しからずご容赦願いたい。

「くりかえし」この言葉のもつものは、主体をなににとるかによって、それぞれ変った意味をもつようである。いま天文的に考えれば、われわれの存在する太陽系は、太陽を中心とし

て、それぞれ自転・公転をくりかえし、それによって時が過ぎて日となり、日が加わって月となり、月を重ねて年となる。そして暦はくりかえす。また気象的にみれば、これら天体の自転・公転のくりかえしによって、四季が生じ、寒暖をくりかえす。雨水は山を下り、川となって海に入るが、この道程において蒸発作用によって雲となり、又雨となって循環する。偉大な自然のくりかえしである。

一方、こうした多彩な自然の恵みの中にあってはじめてわれわれ人間の感情も育み、過去より現在に、現在より未来へと、連続した成長発展を続けてゆくことが出来る。

* * *

「生まれたての赤児は、なにものにも染っていない、ボールのようなもので、赤心であり、これを丹心ともいう。それが日を重ねるに従って喜怒哀楽を覚え、これのくりかえしによって成長するが、もとの完全な球（心）には復し得ない」と。たしか中学一年のときに教わったことがある。一人人間は何のため

に生き、俺は苦しむために生まれてきたのだらうかなど、も
のごとに疑問を感じ易い年頃でもあったためか、一生懸命にこ
の言葉について考え込んだ。そしてその結果は、視・聴・嗅・
味・触の五感によって引き出される感情は、喜怒哀楽それぞれ
の形となつて、その都度心のボールに突起となつて附着してい
く。ときにはこの突起が、そのときどきの感情や経験の程度に
よつて、大きくもなり小さくもなる、感情は経験のくりかえし
によつて得られる、知識と意志によつて選別され、有効な行
動力となつてゆく。そしてこうした突起が沢山出来て、あたか
も粟のイガのようになるが、煩惱の多い人間は、元の丹心とは
なり得ないのだらう、また寄りどころのないイガは、風に吹か
れて転がる心配もあるが、二個三個と、より多く組み合つてい
れば、お互いに不足分を補つて援け合いころがることもない。
これが人間の発展につながる協力というものなのだらう、と。

* * *

いまかりに、「くりかえし」が一次的であるとすれば、
これは直線となり、点と点を結ぶ線上の活動にしか過ぎないこ
ととなる。では、二次元的であるとすれば、これは長さと同
幅だけの広がりであつて、平凡な変化のない、もちろん発展を
望むことのむづかしい平面となつてしまふ。実際にはこれでよ

いのだらうか。マンネリズム化した、根をもたないものである
ならば、これでも止むを得ないかも知れない。しかし、人類に
は歴史を根とした有効な発展が約束されなければならない。そ
こで、三次元について問題を考えるとすれば、長さと同幅と高さ
の次元が加つたこととなり、われわれの認識する空間に相当
し、くりかえしの場に強度と弾力が加わることになり、発展が
約束され得ることになる。

* * *

くりかえしには、綺麗ごとばかりではなく、戦争といった苦
いくりかえしもあることだが、くりかえしによつて多くの経験
が生じ、経験によつて強力な意志が作用して、これらを抑止す
ることも可能なことで、いつも連続した、よどみのない生活の
中に生き甲斐を求め、目標に向つて協力し、培われた経験の結
集を基盤として努力することが、人類の発展につながるもので
あると信ずる。そして、いま四つん這いの子も、同じように生
活をくりかえし、先人の築いた土台の上に立つて、よりよき発
展に努力するとき、これらを育む環境をよりよくして
おくことが、現在の私達の責務というものではないだらうか。

(東京天文台)